



September 2018

Newsletter

第 23 号

理工学系技術部広報誌

平成 30 年 9 月 4 日発行

統括技術長 就任挨拶

平成 30 年 4 月 1 日付で群馬大学理工学系技術部統括技術長を拝命しました近藤です。理工学系技術部の変革期に大役を任せられ、日々、重責を感じております。

群馬大学理工学系技術部では、各技術職員の持つ技術力を生かし理工学府の教職員ならびに学生に対し、教育研究支援を行っており、教育と研究の質の向上に貢献しています。また、安全衛生、薬品管理、作業環境測定、廃液集荷、学生向け安全講習など、大学の環境安全を支えています。他にも、機器分析センター機器の保守管理・技術指導、RI 施設の運営管理、マシンショッポ・プリントショッポの運営など、管理運営でも大学を支えています。地域貢献分野でも技術職員の技術を生かしてイベントの開催、出張イベントにも積極的に参加しており、地域社会に貢献しています。技術職員は技術向上のために、スキルアップ研修、学外の講習会、研究会等にも積極的に参加し、技術研鑽に励んでおり、その成果を技術部報告会、各種技術研究会、出張報告会等で発表しております。

教職員の皆様には、まず理工学系技術部を知っていただく意味でも、先日お配りした「技術部報告集第 16 号」や理工学系技術部ホームページをご覧になっていただき、技術職員の業務を知っていただきたいと思っております。技術部ホームページには、技術相談窓口を開設しております。

技術相談、製作依頼、修理依頼など、申し込めますのでご利用いただければと思います。

9 月 13 日 (木) には、第 17 回技術部発表会が開催されます。発表会では技術職員の業務についての発表があります。聴講は自由ですので、お時間がありましたら会場まで足を運んでください。また、9 月 20 日 (木) には、北関東地区技術職員安全管理ワークショップを開催します。安全衛生に関連した発表が多数ありますので、こちらにも足を運んでいただけたら幸いです。

大学の改革に伴い、理工学系技術部としても組織の再編を図り、教育研究支援を効率的に行えるよう業務の可視化を進めるとともに、職員一人一人が組織を構成する一員として、人間性、専門性を高め、組織としての力量を高めていくことが必須であります。今後とも、理工学系技術部の業務にご理解をいただき、より質の高い教育研究支援が提供できるように努力してまいりますので、今後ともご協力のほどよろしくお願い致します。



(文責：統括技術長 近藤)

平成 30 年度 技術部ニューフェイス紹介



石原 れい子
機器分析部門

技術職員として頼られるよう日々努力していきます。宜しく願い致します。



後藤 悠
機械センター部門

経験を活かした本学への貢献と新しい分野への積極的なチャレンジを行います。



岡田 賢二
機械センター部門

技術の向上を図り、職務に邁進したいと思います。よろしく願い致します。



高橋 洋平
情報電気部門

母校で働けることを嬉しく思います。皆さん、よろしく願いいたします。

平成 30 年度学生向け技術・安全講習会について

1) 機器分析部門による講習

機器分析部門では、4月25日(水)14:20~16:00大講義室にて「化学物質の安全・安心取扱の初歩としての化学物質のリスク評価と廃液集荷に関する講習」を実施した。今年で5回目となり今回も好評を得た廃液処理を依頼している業者を講師に迎え、三部構成で行った。第一部の「化学物質のリスク評価」では1. 大学における化学物質管理 2. リスク評価とは 3. 健康障害防止のためリスク低減の道具として理工学部仕様に開発した【化学物質のリスク評価システム】の活用法について説明し、第二部では、廃液に関しての適正な取扱い方、貯留分類、集荷当日の搬入方法等について説明を行った。第三部では、株式会社ミヤマに各種廃液の処理方法、混合危険物による事故事例の紹介をしていただいた。受講者は、学部3・4年生165名、大学院生27名、教職員4名の総勢196名と昨年の141名と比べると50名強に増加し、大盛況であった。受講者からは有益な情報を得ることができたこと概ね好評であった。今後も内容をより充実させ続行する予定であるので、研究室に所属になる新4年生には是非受講戴きたい。



この場をお借りして、研究室内の学生へのアナウンス等ご協力を戴きました教員の方々、事務系職員、技術職員の方々のご支援とご協力に感謝申し上げます。今後も学生の安全で安心な研究活動の一助となる様、機器分析部門技術職員一同日々研鑽し、この講習会の開催に向け、努

める所存です。今後とも皆様のご支援・ご協力を賜ります様お願い申し上げます。(文責:木間(富))

2) 情報電気部門による講習

情報電気部門では、6月27日(水)14:20~15:50電気特別実験棟201室にて「ハンダ付け技術講習」を実施しました。ハンダ付けとは、融点の低い金属のハンダを使用し、主に金属同士を接合させ手軽に強い結合強度と電気伝導性を得るものです。しかし、技術不足による不良が思わぬ災害を招くこともあります。そこで、確実なハンダ付け技術の習得を目的に、理工学部の学生に対しハンダ付け技術の解説及び実習を行いました。今回は、定員(20名)中13名の応募がありました。内訳は、学部生8名、大学院生4名でした。講習はまずハンダ付けに関する講義を20分程度行い、その後、線の付け方や電子回路の作製(メロディICを使ったオルゴールキットの製作)を行った。講習会の最後にアンケートを行いました。受講者からはハンダ付けのコツがわかり、今後の研究や就職に役立つと好評でした。今回の反省点として、参加者募集開始が遅れて、参加者が定員を下回ってしまったこと。アンケート結果としては悪くないと思っているので、次年度は参加者の募集を早め、多くの学生に周知が届くよう行いたいと思います。



この場をお借りして、ご協力頂いた教職員の方々に厚く御礼を申し上げます。(文責:横尾)

技術職員紹介 (3号館3317室)

平成30年6月より、機械知能システム理工学科担当の技術職員として三ツ木寛尚、後藤悠、岡田賢二の3名が、それぞれの専門技術を活かしながら、教育支援と研究支援を行っております。教育支援では、工作実習における機械操作の指導やレポートの作成指導を行うとともに、学生の設計技術の向上を目的として、3DCADの講習会を開催しております。研究支援では、学生が作成した図面を基にした依頼加工から、実験仕様にマッチした試験装置の設計や治具製作までを先生方と協議を重ねながら、行っています。ハードウェア試験機の開発支援や固相接合用治具の設計・製作が本件の実績です。

次に、各メンバーの保有する技術を紹介します。三ツ木は3Dプリンタやワイヤカット放電加工を用いた複雑な形状の加工を得意としています。後藤は実務経験が豊富で、溶接や機械要素などの機械系の領域に関する知識と経験を有しており、ニーズに合った装置設計や治具の製作が可能です。岡田は、学生時代に振動に関する実験と解析を行っており、振動に関する知識と分析能力を有していま

す。さらに上述の技術の他、技術部の先輩方から汎用工作機械やNC工作機械の取り扱いを学び、金属および樹脂材の加工も可能です。

最後に、私たち機械知能システム理工学科担当の技術職員は学科の業務を通じて、本学の益々の発展に貢献したいと考えています。どんな些細なことでもお気軽に相談いただければと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。(文責:岡田(賢))



3D-CAD講習会の様子



ワイヤカット放電加工事例